



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099（226）5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間〒共1100円



ザビエル上陸記念祭を盛り上げよう 趣旨を再確認し信徒の心表現しよう

Iザビエル上陸記念祭の趣旨
ザビエル上陸記念祭は教区が主体となり、地域への宣教を目的として行われるものです。開催日は、毎年、祭日の「山の日」であることにより、多くの信者さんに参加して頂けることを期待しております。

今年は、その芽が花を咲かせるときこそ、イエス様が再びこの地上に来られるのです。その日、即ち、神の国が実現する日を待ち望み、日々の生活を福音の光で照らしましょう。

IIキヤッチフレーズ募集

今年からザビエル上陸記念祭は祭日である山の日に行われます。多くの信徒のみなさんご参加を望んでおります。日本に初めて福音がもたらされたのは、外ならぬこの鹿児島です。この神様の大きな御業とザビエルが命をかけて伝えようとした福音を、この機会に改めて考えてみましょう。

ザビエルは大きな期待と喜びをもって鹿児島に上陸しました。これにより、鹿児島が日本で初めて福音が伝えられる場所となったのです。このことに思いを馳せることも上陸記念祭の意義と言えるでしょう。ザビエルが蒔かれた福音の種は、今も教会を通じてこの鹿児島に蒔かれ続けています。たくさんの方の福音の種が芽を出すのであれば、この地上に神の国がより近

づきます。そして、その芽が花を咲かせるときこそ、イエス様が再びこの地上に来られるのです。その日、即ち、神の国が実現する日を待ち望み、日々の生活を福音の光で照らしましょう。

今年も傾聴講座開講 きぼうの電話

郡山司教様の切なる思いで始まりました「鹿児島きぼうの電話」も、今年で30周年を迎えることになりました。この間には、存続の危機も含めたさまざまな時期がありました。そんな時期を乗り越え、こうして30年

の目にどのような映ったのだろうか？④鹿児島こそ日本です。福音が伝わった場所。⑤御言葉はザビエル

によつて「かごんま」の心に蒔かれた。⑥ザビエルの宣教の実は福音を受け入れ、継承していきける「かごんま」の素質があつたからこそ。⑦ザビエルの思いに心を馳せ、日々の生活を福音の光で照らししてみよう！（ザビエル上陸記念祭・実行委員長 鈴木康由神父）

奄美大島から長崎巡礼

野菜を売って資金作った子どもたち

3月20日（月）から26日（日）にかけて、中学校を卒業したばかりの6人の子どもたちが奄美から長崎へ巡礼の旅をしてきました。行き帰りのフェリーでそれぞれ1泊ずつ、長崎で3泊、そして鹿児島で1泊と6泊7日の旅でした。

奄美地区の青年会にも話をもちかけたところ、「巡礼に行く本人たちにも資金を集めさせてはどうか」ということで、野菜を販売す

間継続できましたのは、ひとえに相談員の皆さまの孤独な人々の心に寄り添いたいとの思い、教区全体から寄せられる賛助会員の方々の温かい志、そして何よりも皆さまのお祈りのおかげです。

6月からスタートします「第30回傾聴カウンセリング講座」もぜひ多くの皆さまに受講して頂き、家庭や

鹿児島きぼうの電話 傾聴カウンセリング講座

回	月	日	曜	講 師	内 容
※	6	17	土	事務局	説明会 14時と19時（2回）
第1回	6	23	金	竹山 昭神父	共に歩むためにⅠ
第2回	6	30	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識Ⅰ
第3回	7	7	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識Ⅱ
第4回	7	14	金	有倉巳幸先生	職場の人間関係
第5回	7	21	金	有倉巳幸先生	人間関係の中のストレス
第6回	7	31	月	森口 進先生	アルコール依存症-その関わりⅠ公開講座
第7回	8	7	月	森口 進先生	アルコール依存症-その関わりⅡ公開講座
第8回	8	25	金	事務局	電話カウンセリングの実際① 懇親会
第9回	9	8	金	今林俊一先生	家族の人間関係
第10回	9	15	金	今林俊一先生	青少年の心理Ⅰ
第11回	9	22	金	今林俊一先生	青少年の心理Ⅱ
第12回	9	29	金	事務局	電話カウンセリングの実際②
第13回	10	6	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにⅠ
第14回	10	13	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにⅡ
第15回	10	20	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにⅢ
第16回	10	27	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにⅣ
第17回	11	10	金	郡山健次郎司教	それでも「きぼうの電話」
第18回	11	17	金	竹山 昭神父	共に歩むためにⅡ
第19回	11	24	金	竹山 昭神父	共に歩むためにⅢ 修了式・認定式
第20回	12	1	金	事務局	電話カウンセリングの実際③ 懇親会
※	12	8	金	事務局（研修）	新人オリエンテーション①
※	12	11	月	事務局（研修）	新人オリエンテーション②

ご出現100年 記念ミサをささげる

ファチマの聖母ご出現（1917年）から100年にあつた5月13日（土）午後、カトリック・ザビエル教会でご出現記念ミサがささげられた。

ミサは泉浩二神父、竹山昭神父、パク・チャンキョ神父の共同司式でささげられ、50人ほどの信者が参列した。ミサで説教した泉神父（司教総代理）は、カトリック新聞（4月30日付）の

記事からファチマにおける聖母マリアのご出現を振り返り、「時代は変わつても、マリアさまのメッセージにあつた回心と悔い改め、世界平和のための祈り、ロザリオの祈り、ゆるしの秘跡、ミサと聖体拝領の大切さは変わらない」と現代に生きる私たちに信仰の基本となる祈りの大切さを訴えた。その上で、泉神父が幼い頃過ごしたファチマの聖母を守護の聖人に定めている大熊教会の思いを語り、「5月は聖母月。この機会に自分にできること、なすべきことを黙想して欲しい」とメッセージを送った。

障がい者と共にささげるミサ

テーマ「起きなさい。床を担いで歩け」（ヨハネ5・8）
6月25日（日）15時 鴨池教会
主催 障がい者の会「パッション」





信徒主催でご復活野外ミサ
心が燃えた喜びの1日

大島地区青年会 星村文乃

ご復活おめでとうございます。

雨でも晴天でもなく、ほどよい曇りの好天に恵まれた4月16日(日)、地区小教区信徒主催の「ご復活野外ミサ」が、奄美市浦上教会のグラウンドで行われました。

広大なグラウンドに即座の祭壇。用意した椅子は約400脚。立って参加され

た方を入れると450人ほど。侍者の子供達、神父さま方約15人。郡山司教さま司式のごミサの1時間30分はあつという間に感じました。過去2年間は、七つの小教区で集まりともに昼食を取り、その後、レクレーションという形を取ってききました。

「年に一度は、地区全体の七つの教会が一つに集えたら」という声が3年前のたらくレーシオンになったと聞いていましたが、今回の野外ミサに参列して、信徒の方が多々求めているのは「一緒に神さまを賛美すること、ごミサを分かち合うこと」なのではないかと感じました。

その証拠は、ミサ終了後のレクレーションは約3分の1の人数であったこと。また、言葉が適切かどうかは分かりませんが、ミサの間はまるでコンサート会場のような熱気。司教さまの説教は決して短いものではなかったのですが、長時間、耳と目が、心がそこに吸い込まれるようなそのような雰囲気がありました。

今回は、短時間での企画準備でもあり、いろいろと行き届かない中での実施。すべて終了した後の懇親会では反省の声も多々あり、その中で、別の小教区の先輩方から色んなお話を伺えたこと、そして、熱く語る神さまへの想いを聞けたことは貴重な時間でした。エマオへの道のように心が燃える体験でした。

大島地区七つの小教区信徒会主催のこのご復活野外ミサが、今後とも聖霊に満たされたものでありますように。また、自分自身、もつともつと奉仕できる者でありたいと心から願う時間になりました。

鹿児島教区教勢

2016年12月31日現在

教会名	信徒数		死 亡	信徒の 移 動		主日ミ サ参列者	洗 礼		堅 信	求 道者	教会学校 (幼・小学生)		教会学校 (中学生)		教会学校 (高校生以上)	
	総 数 () 内男性	不 明		転 入	転 出		幼 児	成 人			信 徒	総 数	信 徒	総 数	信 徒	総 数
阿久根	46 (15)	0	0	1	2	35	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
出 水	172 (64)	0	2	4	11	30	1	1	0	1	3	36	0	0	0	0
入 来	87 (28)	0	3	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大 口	147 (50)	0	1	2	3	35	0	0	0	0	1	1	2	2	1	1
川 内	316 (125)	19	1	0	2	60	4	2	0	0	1	1	0	0	0	0
鹿 屋	262 (100)	36	2	0	0	45	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
国 分	180 (75)	4	0	5	1	30	0	0	0	0	6	6	3	3	3	3
志布志	98 (34)	0	1	5	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
垂 水	9 (5)	17	0	2	1	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
始 良	201 (89)	7	3	9	13	60	1	1	1	5	3	3	1	1	3	3
指 宿	92 (31)	0	0	5	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加世田	139 (56)	3	0	0	5	15	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0
鴨 池	505 (207)	48	2	0	14	110	5	3	13	1	6	9	0	0	0	0
ザビエル	1033 (338)	187	12	31	22	250	2	11	13	13	31	31	9	9	6	6
谷 山	796 (319)	32	2	7	6	130	2	0	14	6	4	5	1	2	1	2
玉 里	247 (100)	14	5	0	0	55	0	0	5	0	5	5	3	3	0	0
紫 原	169 (66)	0	2	1	4	35	1	1	0	3	4	18	0	0	0	0
吉 野	284 (124)	54	5	0	1	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
種子島	74 (31)	21	1	16	0	30	0	0	0	5	5	5	0	0	0	0
溝 辺	33 (16)	0	1	1	6	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大笠利	528 (214)	54	15	2	2	100	8	1	0	1	0	0	0	0	0	0
小 宿	311 (115)	0	4	1	2	60	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
古仁屋	111 (26)	0	5	0	0	25	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0
瀬 留	372 (150)	0	7	0	0	70	1	7	4	0	0	0	0	0	0	0
大 熊	572 (258)	8	12	1	0	200	4	1	1	0	6	6	1	1	0	0
古田町	736 (251)	40	9	0	1	150	4	2	0	0	7	7	10	10	0	0
聖 心	799 (306)	38	12	4	6	230	1	5	5	0	16	16	11	11	6	6
徳之島	433 (146)	0	8	1	5	58	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0
和 泊	175 (44)	3	0	0	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	8927 (3383)	585	115	96	105	1941	38	42	60	43	105	164	41	42	20	21
							80	164			42	121				

数字で知る私たちの教区

2016年教會現勢報告

小教区
巡回教会
聖職者の数
司教

1 40 29

教区司祭（日本人）	19
教区司祭（外国人）	8
宣教・修道司祭（日本人）	8
宣教・修道司祭（外国人）	4
その他司祭（外国人）	1

信徒数	我区大神学生 (日本人)	我区大神学生 (日本人)	教区神学生	修練・志願者 (外国人)	修道女 (日本人)	修道女 (日本人)	修道士 (外国人)	修道士 (日本人)	献身助祭
	1	3		4	17	8	3	1	6
						10			

男子一般信徒	3	3	8	3	中學校
女子一般信徒	5	5	5	4	男子
信徒合計	8	9	2	7	女子
教育關係	(1)				幼稚園
大學	6	5	5		男子
	5				女子
短期大學	(1)				
女子	4				福祉關係
	6				保育所
高等學校	(3)				兒童福祉施設
男子	6				老人福祉施設
女子	9				
	8				
	1				

$$\begin{array}{ccccccc} & & & & 1 & 1 & \\ & & & & 3 & 2 & \\ & & & & 5 & 4 & \widehat{21} \\ 3 & 3 & 2 & & 4 & 7 & \widehat{1} \end{array} \begin{array}{ccccccc} & & & & 1 & 5 & \\ & & & & 9 & 0 & \widehat{3} \\ & & & & 1 & 6 & \end{array}$$

3 3 2

殉教者の地を巡って感じたこと

野菜を販売して叶えた長崎巡礼の思い出

マリア教会 栗栖宏行

私たち6人は3月20日から3月26日までの間、長崎巡礼に行ってきました。大浦天主堂や浦上天主堂、黒崎教会などすぐくきれいな教会を見てまわったり、お祈りをしたり、ザビエル教会ではミサを受けることができました。

特に自分が感動したところは浦上天主堂でした。ステンドグラスがきれいでたくさんあり、神秘的で圧倒される景色でした。

聖母の騎士ではたくさんの資料を見ることができて、ルルドにも行くことができてよかったです。コルベ神父の話はとても尊敬できる話で衝撃的でした。本当にすごい話で、最初聞いた時は信じられませんでした。コルベ神父の話を見習って周りに愛される人になりたいです。

この巡礼にたくさんのご協力とご支援をして下さった皆様、どうもありがとうございました。すごく楽しく貴重な体験ができてよかったです。

聖心教会 村田優之心

僕は、3月20日から26日まで長崎巡礼に行ってきました。それに向けて野菜の収穫・販売をしました。その際に購入、寄付、また差し入れを持ってくださった皆様、皆様の支援があったおかげで今回の巡礼をスムーズに行うことができました。ありがとうございました。

いました。

今回は長崎だけではなく、熊本でも教会を回ることができ、多くの教会を見て様々なことを学ぶことができました。

また、150年以上、今の形を保っている教会があり、建てられた当時の形を保ちながら、その信仰を守



り続けていくことは大変なこと、見習わなければいけないと思いました。

マリア教会 中田翔也

3月の20日から26日まで長崎巡礼に行ってきました。大浦や浦上、黒崎教会や崎津教会、聖母の騎士に行ったりしました。

コルベ神父の話を聞いた、ハウステンボスへ行ったり、二十六殉教者博物館と記念碑など、隠れキリシタンの聖地へ行きさまざまな体験をすることができました。

巡礼に行けたのもみなさんのご支援のおかげです。ありがとうございます。この巡礼で学んだことをこれから的人生に役立てていくようにしていきたいです。

聖心教会 最上太智

僕は、この長崎巡礼で様々なことを学ぶことができ、友達との親交を深めることができました。この巡礼で特に印象に残ったと思うところは二つあります。

一つ目は二十六聖人記念館です。命を捨ててまでも信仰を貫き通した人々は、他の人には絶対に真似できないことをしたので、信仰心が熱くて素晴らしいと思いました。

二つ目は、聖母の騎士です。聖母の騎士をつくりあげたコルベ神父様の話を聞きました。コルベ神父様はナチスの収容所に入れられました。彼は殺されそうになった囚人の身代わりとなって亡くなったそうです。

この話を聞いて、人のために自分の命を犠牲にしたコルベ神父様は他人をすごく愛していたのだなあと感心しました。

今回の巡礼では、昔の人の生き方から大切なことを学びました。これから巡礼で学んだことを日常生活にいかしていきけるようにしたいです。

僕達の巡礼のために協力してくださってありがとうございました。いっかこの恩が返せるようにこれからも頑張りたいです。

マリア教会 富山 聖

この度は、募金協力ありがとうございました。今回の長崎巡礼ではたくさん教会や教会に関わりのある場所にいき、信仰を深めることができました。そして、ハウステンボスで楽しむこともできました。

その中で一番心にのこっているのは、コルベ神父のお話です。人のために命をささげられるのはすごいと感じました。自分も人を信じ、人に信じられる人、人を愛し、人に愛される、本当の愛をこれからそいしていきます。とても充実した六日間を過ごしました。この思い出は、一生強く心の中にとどめておきます。忘れることはありません。

司教執務室便り

6月の祭日を思う



6月といえばまずは梅雨。長雨は

気がめいるものですが、典礼暦を見ると、6月ほど祭日が多い月はない

です。先ず4日の「聖霊降臨」に11

日の「三位一体」の主日。そして18

日の「聖体」の主日と続き、23日

（金）、24（土）は「イエスのみ

心」と「洗礼者聖ヨハネの誕生」が

続きます。聖ペトロ聖パウロ使徒を

29日（木）に祝って祭日の月が締め

くくられます。

ちなみに、クリスマスや復活祭は

祭日としてお祝いするので、このことから6月は、喜びに満ちた月であることが分かります。

どうして、6月に祭日がひしめいてのだろうとぼんやり考えていると、次のような思いが湧いてきました。

聖霊降臨の日に、まるで冬眠から

覚めた生き物たちのように、一斉に

活気づいた弟子たちが熱く福音を宣

べ始めた。そして、生前の主が目の

前におられない現実初めて「父と

私は一つである」（ヨハネ10・30）と

いう主のみことばが思い起こされ

た。感慨にふけりながらかみしめて

いると、三位一体という言葉はまだ

知らなかったとはいえ、父と子と聖

霊のダイナミックな働きに一つひと

会と催し（6月）

- 4日（日）聖霊降臨の主日
- ▼教区修道女連盟総会・教区本部・10時
- 7日（水）聖霊セミナー・ザビエル教会ホール・10時
- 8日（木）聖体礼拝・6時30分
- 10日（土）賛美の集い・教区本部・14時
- 11日（日）三位一体の主日
- ▼奄美連総会・浦上教会
- ▼フリチエル神父命日（2016年）
- 13日（火）泉浩二神父霊名（聖アントニオ）
- 14日（水）聖霊セミナー・ザビエル教会ホール・10時
- 18日（日）キリストの聖体
- 20日（火）教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 21日（水）聖霊セミナー・ザビエル教会ホール・10時
- 23日（金）イエスのみ心
- 24日（土）洗礼者聖ヨハネの誕生
- ▼小川靖忠神父霊名（洗礼者聖ヨハネ）
- 25日（日）年間第12主日（聖ペトロ使徒座への献金）
- ▼障がい者と共にささげるミサ・鴨池教会・15時
- 28日（水）司教評議会・教区本部・14時
- ▼聖霊セミナー・ザビエル教会ホール・10時
- 29日（木）聖ペトロ・聖パウロ使徒
- ▼コンベンツス・教区本部・10時
- ▼「聖ヨハネ・聖パウロのミサ」・カテドラル・11時30分
- ▼ミイベルガ神父叙階記念（1969年）
- （聖ペトロ霊名）竹山 昭神父 永山幸弘神父
- （聖パウロ霊名）小隈憲士神父 アン神父、坂本 進神父 貴島丈弥神父

祈りの意向

【祈祷の使徒会】
世界共通 国の指導者たち
日本の教会 世界の教会との交わり

【教区報を音声で聞きますか？】視覚に障害のある方のために、教区報を朗読し音声にしてくれているのがイグナチオ教会の音訳サービスのCICインフォメーションセンターの方々。もう長い間、鹿児島教区報をカセットテープに仕上げる作業が続いている。きっかけは、20数年前にで来られ「教区報を読みたいが、読めない。ここ（CICインフォメーションセンター）に教区報を送って欲しい」と訴えられたことにある。それから毎月、清々しい声で記事を読み上げたテープが届けられ続けている。

音声で聞く教区報は、また文字を追う読み方とは違った味わいがある。本来は、目に障害がある方を想定しての音訳だが「仕事をしながら聞き流すこともできる」と利用者には好評。そこで教区広報部では、信徒の高齢化も配慮し、インターネットで教区報が聞けるようにした。希望の方は、鹿児島教区ホームページから。

神学生の「僕の長崎への道」

日本二十六聖人の道を歩いて

(9)

3月4日（金）荏原―福山：約21km
荏原を発ったのは午前9時半。青木から旧街道に入ると、人も車両もほとんど見かけることなく、寂か。井原駅前を過ぎ、高屋で小休止。井原鉄道高屋駅隣、高架下の喫茶店に入る。障害のある人も共に働く店。近所の人びとと思いき高齡の男女で賑わっている。働く人と集う人との団居が心地良い。感じのよい店だ。「寄つていただいてありがとうございまして」。丁寧な挨拶に見送られ、ふたたび旧道へ。岡山・広島県の県境碑をまたぎ、広島県に足を踏み入れる。

野中神父に尋ねた。張れたとして、せいぜい岩国の川縁くらい、とのこと。ここまでの道程を思い返してみても、野宿できそうなどころはまずない。いまだきはどこも物騒。公園や空き地も宿営禁止、警察官の巡回も。鉄道駅は終電とともに閉舎。無人駅でさえ「終電から始発まで閉鎖」の看板が。管理者の見廻りさえある。いままさらながら、世知辛い世間と知って、決断。最悪の場合を考え、寝袋を残し、郵送したのである。午後4時30分、福山教会着。

3月5日（土）福山―尾道：約23km
午前7時、ミサに与る。午前9時、昨晚電話のあった、倉敷教会のWさんの友人、福山教会の信徒であるFさんと出発。国道2号線に並行する商店街を抜け、神島橋を渡る。山陽本線、ならびに山陽新幹線の高架をくぐり、旧道へ。

Fさんは佐世保、相浦の人と聞いた。この旅をとおして西日本で出会う信者のほとんどが皆、九州を出自

とする。特に長崎地方をルーツとする人が多いのは、やはり歴史だろう。きょうは暑い。気温は20度まで上がるらしい。防寒着は冬山用。Tシャツ一枚になつて歩く。

昼食後、しばらく歩いた頃。Fさんが僕の足取りを見、「Wさんから聞いていたけど、まだ悪そうですね」。毎日、一晩休んだ午前中はまだ良いものの、午後にもなれば痛みが募る。自然、痛めた足をかばうよ

うに歩くから、どこか不自然な脚運びなのだろう。特に、休息した後がいけない。足を痛めてからは定期的に、ほぼ一時間半から二時間おきに、休息をとる。その休息後の歩き出しがきつい。痛いのなんの。麻痺して普通に脚がでるようになるまで約10分。情けないが、家鴨がよちよち歩くよう、ぎこちない。

交通量の多い国道を避け、なるべく旧道と思しき裏道を行く。「ちかみち道標」から山を登り、尾道バypassに沿ひ下る。防士トンネルを廻り込むように上り坂を行く。ずいぶんと高所の、かなり奥まった所へ彷徨い出た。産業団地のよ

うな場所。一軒の事業所で道を尋ねる。結局、尾道市街にでるまでに約一時間半を要す。Fさんが尾道教会に電話を入れてくれる。主任司祭は、「神学生？聞いてな

俳句

鹿児島純心 川上 和
「アヴェマリア」さつきの森のこだまとなり

奄美市 林 常広
聖母月祈りなさいと涙雨
吉野教会 徳永ノブ子
遠い道ロザリオくりた日の五月
目に耳に青葉若葉の快し
薔薇の花香しミサの聖母月

短歌

鹿児島純心 川上 和
懐かしむファティマの丘の熱き祈り諸人手をのべ「アヴェ・アヴェマリア」
牧童にメッセーじ伝えて百年の平和のしるベロザリオ示す
(三十八年前ファティマの聖地を巡礼)
始良教会 川口 節子
始良教会の誕生と共に育ちし友召さる小平司祭居ます御国に
み空近き始良ニユータウンより教会へ主のみ国より家族への愛を

い」。確かに電話したはずだが、あの日、倉敷から思いつくまま立て続けに複数の教会へ電話したから、電話したものと思ひ違いをしたかも分からない。午後5時半頃、尾道駅近くで主任司祭、服部大介神父と落ち合う。平身低頭、平謝り。服部神父は、「今年は『いつくしみの特別聖年』についてだから、今回は特別に受け容れましょう」と笑顔。面目ない。(続く)

過去に3度廃案になった「共謀罪」の構成要件を絞り、名称を「テロ等準備罪」に変更し、これを盛り込んだ「組織犯罪処罰法改正案」が国会で審議されています。府与党は、今月(5月)中に法案の成立を目指しています。2年前の「戦争法案」と同様、数の力によつて採決を行い、法律の公布・施行を既成事実として、国民の人権(内心の自由・表現の自由)に制約(国民が委縮してしまい、ものを言わなくなることも含め)が加わることが心配です。

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 6月号

法律の専門家は、今回の法案が近代刑法の原則(心

+KABAYAN SEKSYON+

Personal at Panlipunang Paglilingkod sa mga Dukha

Sa kanyang pangangaral sa Katedral ng Maynila, binigyang-diin ni Papa Francisco na ang Ebanghelyo ay "isang paanyaya sa pagbabalik-loob sa Diyos, sa pagsisiyasat ng ating mga budhi, bilang mga indibiduwal at bilang isang bayan.

"Gaya ng tamang pagtuturo ng mga Obispo ng Pilipinas, tinatawag ang Simbahan sa Pilipinas na kilalanin at labanan ang mga sanhi ng malalim na di pagkapatay-pantay at kawalang katarungan na sumisira sa mukha ng lipunang Pilipino, lantarang sinasalungat ang turo ni Kristo.

"Tinatawag ng Ebanghelyo ang mga Kristiyanong indibiduwal na mabuhay sa katapatan, integridad, at malasakit sa kapakanan ng nakararami. Ngunit tinatawag din nito ang mga pamayanang Kristiyano na lumikha ng mga 'lupon ng integridad,' mga ugnayan ng pakikipagkapatiran na maaaring lumawak at magpanibago sa lipunan sa pamamagitan ng patotoo nitong propetiko."

Hinamon ng Santo Papa ang mga kabataang pari, mga relihiyoso, at mga seminarista sa natatanging paraan na maging bukas sa mga kabataan, lalo na "para sa mga nabubuhay sa lipunang alipin ng kahirapan at korupsiyon, wasak ang espiritu, pinanghihinaan ng loob, natutuksong sumuko, iwan ang pag-aaral, at mabuhay sa lansangan."

Sa ganitong mga pahayag at hamon ng Santo Papa, sana lahat ng mga taong simbahan kasama na ang lahat ng mga kapatid sa pananampalataya ay magkaroon sana ng panibagong pananaw sa buhay-espirituwal. Huwag sanang masentro ang pamumuhay sa mga materyal na bagay. Kailangan maging buhay ang Ebanghelyo sa araw-araw na pamumuhay. Sa ganito lahat ay makakaranas ang lakas na galing sa itaas, sa Diyos Ama diyan sa kanyang Anak na si Hesuskristo na ipinadala sa atin ng Ama para lubusang madama natin ang dakilang pagmamahal sa ating lahat.

Katesismo sa Taon ng mga Dukha (Fr.Dino Orolfo)

定例会の案内

(毎月第3土曜日)
日時…6月17日(土曜日)
13時～15時

場所…教区本部
内容①主の祈り ②情報交換 ③被曝の現実(現場労働者の被曝)